

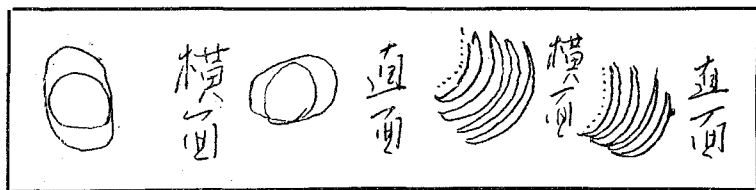
珍月發見御届

拜 啓

下記の如き月の變化は、大正二年には糸線の模様にて、其れより大正五年には二筋と相成り、其れより次第に増數と成りましたので、其の形は下に記し置き候間、御驗査の程御願申上候。斯の如き形狀にて、毎月舊三日より五日迄の間は肉眼にて觀測が出来るので有ります。又、満月と雖も橢圓形にして、丸くなく、其の形は此の如き狀態にて、月の光線薄く成つたのも有ります。又一筋如の不可思議も儘々あり、次第に入筋するやも計り難く、況や恐る可き物ならずや?! 此の將來は如何なるや? 此研究は頗る困難で有ります。又、大始より今日までは其の光線約半分に成つたので、實に珍月で有ると謂ふべきです。然るに此の將來を思ふので、今日まで人は是れを知らずで居りますが、若し月の光が三分位に成るとしたら、人は之れを知らずで居られまいでせう。依て御驗査の程御届及び候也。

長野縣南安曇郡倭村水室 三原 運 治 郎◎

昭和七年九月六日



編 者 よ り

上記の如き經驗は、注意深い人々には屢々あることです。言ふまでもなく、之れは亂視の結果です。およそ、眼の良し惡しを檢査するのには、夜の空に輝やく月の形を見るのが最も宜しい。三日月、半月、満月など、それぞれ自分自身の眼の位置や方向などによつて、像が歪んだり、亂れたり、それが又、年齢によつて變化したりします。醫師の助けを借らずに、的確に、簡単に、亂視の有無を知るには、こうして、月や星を直視することです。